

『歩く県道(銀山街道)』

地域づくりニュース Vol.1

銀山街道位置図



街道の概要

銀山街道は、会津若松市大町札の辻（四つ角）を起点として、南会津郡只見町小林に至るまでの延長約 72 km に及ぶ街道で、会津盆地と奥会津地方を結ぶ最短路であり、諸国巡見使が通った道でもある。近世初期の軽井沢銀山が栄えていた頃は銀を運搬する人達の往来が盛んだったが、明治 29 年の閉山とともに峠越えの人口は減少し、その後は衰微の一途をたどった。

現況 ～ 3 峠の風景～

【 銀 山 峠 】



銀山峠からの眺望



銀山峠から軽井沢への道

【 美 女 峠 】



美女峠頂上



間方集落から美女峠頂上への道

【 吉 尾 峠 】



沢沿いの道
(四十八の瀬渡の名残)



吉尾峠頂上にある山の神様

利活用検討会を開催いたしました

平成 23 年 12 月 6 日 (火) 三島町町民センター 2F 視聴覚室

会津若松建設事務所では、平成 21 年度より管内の交通不能区間の資源調査や維持補修計画を進めてきました。このたび、銀山峠、美女峠、吉尾峠の地域づくり団体の方々と柳津町、三島町、昭和村、金山町、只見町の地元自治体及び福島県で、「歩く県道（銀山街道）」を利活用し今後の地域づくりを推進していくための方向性について確認し、街道の維持・管理やウォーキング等のイベントを連携して進めて行くための仕組みづくりについて話し合いました。

今までの取り組み

- 平成 21 年度は、会津若松建設事務所管内の県道における交通不能区間をいかに利用するかという視点から、地域資源調査を実施しました。
- 平成 22 年度は、「歩く県道」を利活用するための懇談会を、地域の活動団体、町村関係者にお集まりいただき開催し、整備の仕方等について伺いました。

今回の検討会で話し合われたこと

●維持管理の方法について

- 刈払い等の維持管理活動が困難な地区は、県のサポート事業を積極的に活用する。
- 地域住民が中心となって刈払いを行う事で地域に対する愛着を持つ事につながるが、ボランティアを募集するなど色々な方法で活動が継続できるように努める。
- 集落の中に県と連携して「拠点」となる施設を作ることで、刈払いなどの維持管理に参加する人も増えてくる。



●地域住民のかかわりについて

- 「拠点」を活用し、地域住民が来訪者の案内を行う事で町村間の往来が増える。
- 「拠点」が住民と来訪者の交流の場となる事でさらに発展していく。
- 峠の魅力を引き出すには、地域の観光資源と結び付けて考える必要があるが、住民の参加が前提となる。住民が積極的に参加できる方策と組織が必要。
- 過疎高齢化地域なので長期的なスパンでなく早急な計画の策定が必要。



●交流人口の拡大のために

- 銀山峠、美女峠、吉尾峠の連携が大切。3 峠以外の組織とも連携する。奥会津の良さをPRする。
- 3 峠が今までの活動を継続するとともに、「銀山街道」として一体になって地域づくりに取り組む。
- 「歩く県道」だけでなく奥会津全体の骨組みになる道路について考える組織も必要。



今後の取り組みについて

- 地域住民や行政の役割分担を明確にし、自主的に地域づくりに関われる仕組みづくりについて検討する。継続した活動を行うために、中核となる組織（事務局）が必要と思われる。
- 次回は地域資源の掘り起こしを行い、具体的な街道の利活用計画を作成したい。



発行

福島県 会津若松建設事務所 企画調査課

TEL0242-29-5455

FAX0242-29-5459